

日本

ハンザキ研 研究所ニュース 2008(9) : 通巻 No. 32



発行2008年8月31日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

カニ籠トラップによるハンザキ繁殖集団の確認調査(8月27日~9月15日)の成果

この3年間、アンコ淵におけるハンザキの繁殖行動を観察しているが、年々確認する個体数が増えている。3年間の主役は頭に傷跡の黒い斑紋があるので「黒主」と命名していたが、最近では黒色が薄くなってきてしまったので「黒川村の主」と言うことにして、そのまま黒主と呼ぶことにしている。この黒主は2004年7月に、アンコ淵上流の支川で登録されて一度本流に下って再び同じ支流に戻ったが、2006年5月からは現在地に定住している大型のオスで、繁殖期になっても移動することなく3年続けて繁殖も成功している。

アンコ淵には、一昨年は6個体(内メスは2)が、昨年は9個体(内メス3)を黒主の巣穴周辺でチェックした。今年は8月27日から巣穴の上流約50mと下流側100mほどの間にカニ籠6、途中から10個を設置して確認態勢を強化してみた。その結果は黒主も含めて16個体が登録できた。その内、メスと見えたのは3個体のみであったが、内1個体が産卵したのを確認できた。

黒主の行動が変わったのは8月半ばからで、頻繁に巣穴から出ては穴の上下流各50mほどのエリアを、明らかにパトロールするような行動を見せていた。草付の岸辺に潜り込んだりコンクリートの旧・橋脚台の隙間に頭を突っ込んで中を窺ったりしては、アタックすることを繰り返していた。そのたびに隠れていた他のオス個体が飛び出してくる。今期の最初にチェックした時には無傷であった個体が、あちこちに白い咬まれた跡が見えるようになっていく。このパトロール行動を見て、黒主が3年間まったく全長の成長が見られず、体重も減少傾向にある原因が分かったような気がした。それは「恋をするオスは痩せる」ということである。

ほぼ1か月の間、1匹で残りの12匹+?と戦わねばならないのは大変な重労働だと思う。夜昼なしに出回っては咬み付き、時には咬まれて昨年のように左前足が1週間ほど使えなくなったりしているのだ。自分のDNAを残すと言うのは大変なことだと黒主を観察しながら考えさせられた。来年の4月の定期測定の時もやはり99%のままなのかもしれないが、実は4年前に登録されたときには101.5%と測定記録されている。体重の方も7.30kgだったのが測定のたびに減少し、今では5.35kgにまで減量しただけでなく、全長もまた縮むのだろうか(まあ誤差のうちだと思うが・・・)。

ライバルたちの中には90㌔ 3.60kg、90㌔ 6.00kg、91㌔ 4.4kg、92㌔ 6.3kgという4匹の大型のオスも含まれていたが、中には44.5㌔、0.60kgという丸呑みにされかねないサイズのオスも加わっていた。頭や背中、腰、尾部などに次々と咬み跡を付けられていた白オス（体が白っぽい）は、何度攻撃されても諦めることなく繁殖の機会を窺っていたようだ。歴戦を物語るように左後足の指は1本も無くなっていたが、その成果はあったのだろうか？ また、かの二枚目（尾部背側が2枚になっているオス91㌔）は、巣穴のある岩の裾で辛抱強く穴の中を窺っていたが、追われても追われても同じ場所に戻っていた。

個体番号	全長 (mm)	体重 (kg)	性別	8月25日～9月15日の確認
No.0977 (黒主)	990	5.35	♂	(毎日) (平成20年4月の測定値)
No.1078	865	3.85	♂	(8/26)
No.1034	735	2.95	♂	(8/26,9/10)
No.0701	900	3.60	♂	(8/26,9/10,12)
No.0816	665	1.85	♀?	(8/26,9/8,12)
No.0618 (二枚目)	910	4.40	♂	(8/27以後毎日,9/12)
No.1113	835	3.35	♂	(8/30,9/12)
No.0799	900	6.00	♂	(9/1)
No.0946	685	1.80	♂	(9/3,7)
No.1430	580	1.30	♂	(9/7)
No.1431	490	0.90	♀?	(9/7)
No.0927 (白オス)	750	2.50	♂	(9/7,8,12)
No.1077 (産卵)	750	2.40	♀	(9/7,9,12)
No.0692 (太オス)	920	6.30	♂	(9/9,12)
No.1095	745	2.90	♂	(9/11)
No.1432 (小オス)	445	0.60	♂	(9/11,12)

これらの16個体は黒主や二枚目のように、橋の上から斑紋で個体識別できるのは別にして、捕獲しないと識別は難しいので、確認日以外にも周辺をうろついていたものと考えられる。9月12日は産卵日であり、産卵受精が終了して穴から出てきた個体を近距離で全て撮影して識別したものである。産卵パーティに参加したのは9個体（メス1:8オス）であり、残りのメス?2個体とオス5個体はどうしたのであろうか？

カニ籠による調査は楽ではあるが、イシガメが入ったり網の外から何者かが餌にアタックしたりとなかなか問題も多い。皮膚呼吸の盛んなハンザキは心配ないが、イシガメが窒息死しないように仕掛ける場所も浅くて籠の一部が水面上に出ている所を選ばねばならない。ハンザキも脱出を試みると鼻先が籠の網でこすれてすりむけて白っぽくなってしまうので、夕方セットして朝早く取り上げるようにしないと可哀想である。また、今回のように川の水量が少ないときにはやりやすいが、増水している場合には大量の落ち葉が入ったりひっかかって籠の口が開いたりすることもある。しかし、効果的な漁具でした。

NPO(特定非営利活動) 法人の認証を受ける

4月の設立総会を受けて、5月12日には兵庫県地域協働課に申請、8月20日に認証を受けて、即日法務局へ登記しました。生野町におけるNPO法人第1号です。なれない事務的な手続きを準備事務局員が一団となって進めてきました。NPO化へのアドバイスを姫路のNPO法人コムサロン21の有元さんから受けつつ、県職の担当職員の指導もあって無事に認証式に臨む事が出来ました。この日にあわせてすぐに登記ができるように、馴れない手続き書類に取り組んで頑張ってくれた黒田研究員の努力も大変なものです。

これまでの書類や名刺等には(認証申請中)の但し書きが付いていたのですが、早速これを消しました。晴れて正式の「特定非営利活動法人 日本ハンザキ研究所」の発足です。会員の数の目標も200人を目指してきましたが、まもなく達成できそうです。こんなに多くの方々の支援をいただけるとは思いもしなかったのですが、嬉しいことです。ただ、最初は身内など周辺の方にも参加していただいたり、長年の付き合いでお願いしたりとかなり無理も在ります。次年度からはなかなかそうはいかないことでしょうかから、自主財源の確保にも努めねばならないと考えています。各種のイベントを企画したり刊行物を作成したり、ハンザキ・グッズのアイディアもメンバーから出てくることを期待しています。

今後多難な船出ではありますが、日本が世界に誇る事の出来る水生動物ハンザキの生態解明と保全対策の確立、子供たちへの環境体験学習の場の確保などを目指して頑張っているようにしっかりした組織作りを目指します。

.....

ヒダサンショウウオ

サンショウウオ科の動物ですが、オオサンショウウオ科のハンザキのようにほぼ一生を水中で過ごすことは無く、通常は陸上で生活しています。山で生まれた魚「山生魚(サンショウウオ)」が名前の由来だと考えているのですが、その根拠となる文献に巡り合いません。植物のサンショウの匂いはしませんし、その木肌に似ているなどとも言われますが、これも相当しません。土から生まれた?ドジョウ(土生)と同じような語源ではないかと思っています。山仕事をしている人は「山ドジョウ」と呼び、山すそで畑を耕している人は「畑ドジョウ」と言っています。

今年は各地で明治以来の?国土調査が実施されています。割り竹にピンクのリボンが結び付けられ、標識の杭が打ちこまれていきます。調査員の他に地域の住民も境界の確認や杭の運搬に動員されています。そんな一人の方から、谷川にサンショウウオの子供が沢山いるが種類は?との質問がありました。早速、その谷すじを調査したところ水溜りごとに数匹が水底の石の上などに身を隠すことなく点々と姿を見せていました。ヒダサンショウウオ幼生の初確認でしたが、地域の皆さんはとっくにご存知でした。あちこちの谷すじにひっそりと生息しているようです。

ウオジラミの大発生

オオサンショウウオ保護プールで飼育しているハンザキは数が多いので一匹ずつ餌を与えることが出来ません。そこでコンスタントに入手できる餌として養殖されたアマゴやニジマスと一緒に泳がせています。見学に来た皆さんは異口同音に「贅沢だな！」とつぶやかれます。でも、毎日同じものばかり食べていては飽きてしまうのは人間だけでしょうか？ もっとも野生動物はそんな好き嫌いなど贅沢なことは言わないのかもしれませんが。

8月の健康診断をした後、餌のアマゴを補給しました。今度入荷したアマゴは良くハネて飛び出すというと、養魚場の方がウオジラミが発生しているので落とそうと飛ぶのだとの答えでした。運ばれてきて翌日からバタバタとアマゴが死んでいきます。24～25℃という高水温もあってウオジラミがドンドン繁殖して行ったようです。魚体の表面がまだらに剥けていますが、ウオジラミの仕業です。2つの吸盤で振り落とされないように吸い付きながら魚の体液を吸って生活しています。数日で15^キのアマゴが全滅してしまいました。弱ってふらふら泳ぐアマゴは捕食されやすかったこともあり、水底に横たわった死体もドンドン食われてハンザキはたっぷり餌を取れたようです。

水族館では農薬を使って駆除していましたが、閉鎖循環系（同じ水を浄化しながら繰り返し使う）の水族館では可能でも、半開放式（川の水をポンプでくみ上げて流し、汚れた水は濾過槽で浄化して川へ戻す）の保護センターでは自然の川に残留農薬が流れ出す可能性があるため使えません。県の内水面漁業センターに問い合わせましたが、流水式（谷川の水をかけ流しにする）の養魚場は薬を使えないのでやはり全滅させた養殖業者が出ていたようでした。冷水性のウオジラミはコイやキンギョに寄生する種とは別だそうですが困った問題です。

一度に沢山の餌を食ったハンザキには当分は餌を与えなくてもいいでしょうが、全てのハンザキが食えたかどうかは分かりません。しばらくして、通りかかった猟友会の方からアンコ（当地のハンザキの呼び名）は鹿の肉を食うかどうかと質問されました。私はシカを食べたことはあるがアンコには与えたことが無いが食べるでしょうと答えました。それではやってみるかと言って大きな肉塊をくれました。ちょうど夏休みの子供教室中でしたので、短冊形に細長い肉片を切り取って、竹竿の先の針金にシカ肉を付けて子供たちにハンザキの目の前でふらふらと揺り動かしてごらんと言って一人ひとりに渡しました。あっという間に肉片を呑み込まれて子供たちの間から歓声が上がります。次々と餌をとりに来る子供たちに切り分けるのが間に合わないくらいで、飽きることなく続けました。

子供たちの貴重な体験は出来ましたが、今後の餌の問題がありますので、とりあえずアマゴより高水温に強いニジマスを入れてもらいましたが、ほとんど死亡することも無く、水温も下がり始めたのでウオジラミの発生も下火になって安堵しました。それにしても大量のアマゴの死体、冷凍しておきましたがハンザキのカニ籠トラップの餌として有効利用が出来ました。



写真1 カニ籠に入ったハンザキ



写真2 二枚目は二枚目の尾



写真3 栗の木に作られたスズメバチの一種の巣



写真4 ヒダサンショウウオの幼生



写真5 ハンザキの夜間観察会



写真6 ウオジラミの一種

ハンザキ研日誌 2008年8月

- 1日：兵庫県但馬中学校長会 27名来所、小学生の椅子机で熱心に聴講してくれた神戸の鶴甲学童保育（つるの子）15名見学に
- 2日：河川環境親子学習会 20名参加
猪の子谷でヒダサンショウウオの幼生調査、6個体確認
- 4日：オオサンショウウオ保護センターに陽よけシート設置、和田山設備が二期工事受注
- 6日：ヒダサンショウウオ幼生5個体京都大学・西川先生へ送付
- 7日：コミュニティ・ビジネス離陸応援事業助成のヒヤリング、兵庫県しごと支援課
- 8日：地域のボランティア校庭の草刈実施
- 10日：和亀保護の会・松下さん来所、発表の内容検討
- 11日：オオサンショウウオの健康診断実施
日本経済新聞社・取材
- 12日：オオサンショウウオの餌としてアマゴ15^{*}を納入、ウオジラミの大発生と高水温で数日の間に全滅
- 15日：270回目の調査終了（7月30日～）
- 17日：271回目の調査開始（～9月15日）
- 18日：奥銀谷地域自治協議会・すこやか部会出席
- 19日：アンコ淵の黒主は、毎朝5-6時に穴から出てくるようになった。昨年の繁殖期前の行動と同様である
- 20日：特定非営利活動法人としての認証式、兵庫県庁にて
キッズ・ラボ開校式、11名の参加で24日まで
- 22日：オオサンショウウオ観察会実施、30名参加
姫路市立水族館調査に来（竹田・脇本両氏）
- 25日：法務局へNPO法人の登記完了
- 26日：構内の栗の木に小型のスズメバチ発見、巣をゲットするもすねを刺される
- 27日：カニ籠トラップの設置、6個中3個に4個体（メス1、オス3）入る
- 28日：カニ籠に簾野の二枚尾（尾部の背側が二枚になっている、全長91^{mm}のオス）が入る、何年かかって2キロ上流にまでやってきたのか
対ヤマビル3勝1敗（吸われる前に3匹発見、1匹には血を吸われる）
校庭の山側（東と南側）にシカ止めネット設置、これで侵入されなければ・・・
- 29日：兵庫県八鹿土木事務所からオオサンショウウオの日常管理業務受託（9月～3月）
- 30日：NPO法人事務局会議（月1回実施）
- 31日：いくのライブミュージアムのNPO法人発足会に出席

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録（・・・かくして多忙な夏が終わった）
（この印刷物はセブン-イレブンみどりの基金の助成をうけて作成しています）